

第2次

たつの市 地域公共交通計画

概要版

2022 ▶ 2026



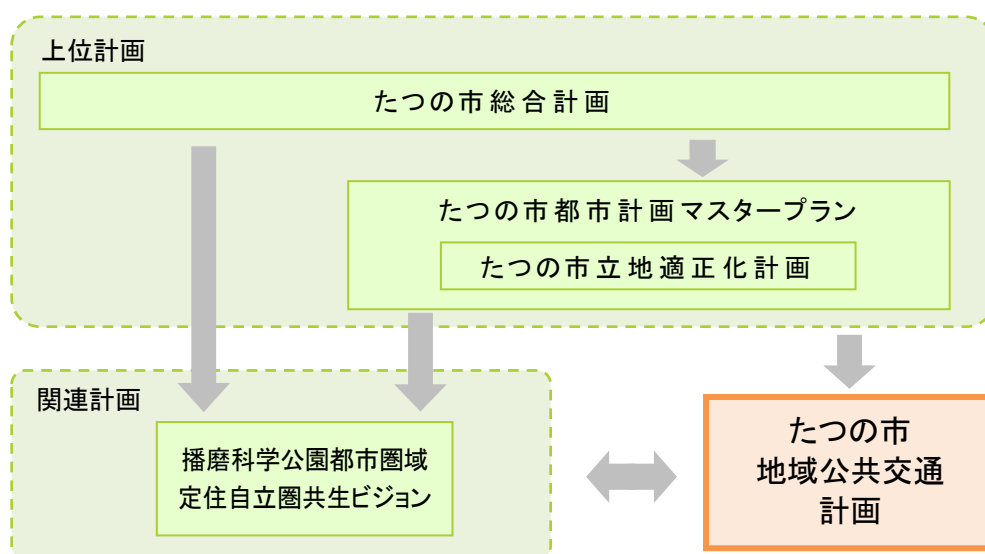
1. 計画の概要



(1) 計画の位置付け

本計画は、『たつの市総合計画』、『たつの市都市計画マスタープラン』及び『たつの市立地適正化計画』を上位計画とするとともに、本市が中心となって周辺市町と連携し、住民の生活機能の確保を目指す『播磨科学公園都市圏域定住自立圏共生ビジョン』等の関連計画との連携・整合を図りながら、本市における地域公共交通の方向性とその具体的な施策を示すものです。

なお、本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」第5条に基づいて策定するものであり、本市において地域公共交通政策を推進する際のマスタープランに位置付けられます。



(2) 計画の区域

本計画の区域は、たつの市内全域（210.87km²）とします。

(3) 計画の期間

本計画の期間は、2022 年度（令和4 年度）から 2026 年度（令和8 年度）までの5 年間とし、2027 年度（令和9 年度）以降は、5 年間隔で計画の見直しを行います。

(4) 計画の構成

たつの市の公共交通を取り巻く現状と課題を把握したうえで、上位計画及び関連計画におけるまちづくりの目標を踏まえ、本計画の方向性を示します。

また、この方向性を受けた目標を達成するため、施策の方向性及び事業をとりまとめています。

2. たつの市の公共交通を取り巻く課題



○ 予測を上回る人口減少、高齢化の進行

- ・人口減少、高齢化は予測を上回る速さで進行しており、今後、さらに人口減少、高齢化が進み、2045年には2020年現在より人口が21,000人減少し、高齢化率が40%まで上昇すると予測されています。

○ 自動車利用の多い市民移動

- ・市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」の運行によって、市内のどこからでも公共交通が利用できますが、市民の移動の約8割が自動車利用であり、高齢者の増加に伴って、高齢者の交通事故の割合も増加しています。

○ 市民の2割を占める移動に問題を抱えている人

- ・移動する際に問題を抱えている人は、市民の2割程度いると考えられ、自動車運転免許や自動車を持っていない等、自動車が利用しづらいことで、移動する際に問題を感じていることが窺えます。

○ アクセス性や利用環境の改善が必要な交通拠点

- ・JR竜野駅等、アクセス性が良いとは言えない鉄道駅が一部残されています。
- ・利用者が多いにもかかわらず、待合環境が十分でないバス停も見られます。

○ 市民の活発な市外交流と観光客の減少

- ・市民の通勤・通学先としては、市外への移動が多くなっており、市域を越えた生活圏への日常的な移動が行われています。
- ・観光客は日帰りが多く、市内への観光客は減少傾向となっています。

○ 新たなモビリティサービス等への対応

- ・自動運転技術の進展、超小型モビリティの開発、MaaSやビッグデータ、AI、DXの活用等が進んでおり、これらの技術やサービスへの対応が求められます。

3. 計画の方向性



(1) 基本理念及び計画の目標

本計画では、上位計画のまちづくりの目標や、本市の公共交通の現状と課題を踏まえ、公共交通のあるべき姿として『安全・安心・快適に誰もが移動しやすいまち「たつの」』を基本理念とするとともに、本計画を推進するに当たり、基本理念に基づく3つの計画目標を設定します。

< 基本理念 >

『安全・安心・快適に誰もが移動しやすいまち「たつの」』

< 計画目標 >

計画目標1. 誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築

上位計画が目指す本市の将来都市像の実現に向けて、鉄道、路線バス、コミュニティバス、圏域バス「てくてくバス」、市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」等が相互に連携した公共交通ネットワークと自動車、自転車、新たなモビリティサービス等が連携した交通ネットワークの構築を図ります。

市民はもとより市外から本市を訪れた人にもわかりやすく、移動しやすい交通ネットワークの構築を目指します。

計画目標2. 多様な交通と人が集まり快適で賑わいある交通結節点に向けた機能向上

自動車から鉄道へ、自転車からバスへ等、複数の交通機関の乗り継ぎ拠点となる交通結節点において、様々な交通手段へスムーズに乗り継ぐことができるよう、交通機能の向上を図るとともに、わかりやすい情報発信を行います。

また、交通結節点は、地域のまちづくりに貢献する拠点機能を有する施設でもあることから、多様な交通と人が集まり、快適で賑わいある空間づくりを目指します。

計画目標3. みんなで育てる安全・安心な交通環境の創出

本市の公共交通を継続的に運行していくためには、行政、交通事業者、利用者等の各主体が、連携・協力しながら、本市の地域環境に対応した公共交通に育てていく必要があります。

また、公共交通を利用する上では、特に安全・安心な利用環境が求められているため、交通と衛生の両面で安全性向上を強化していくとともに、利用者が安心して利用できる交通環境の創出を目指します。

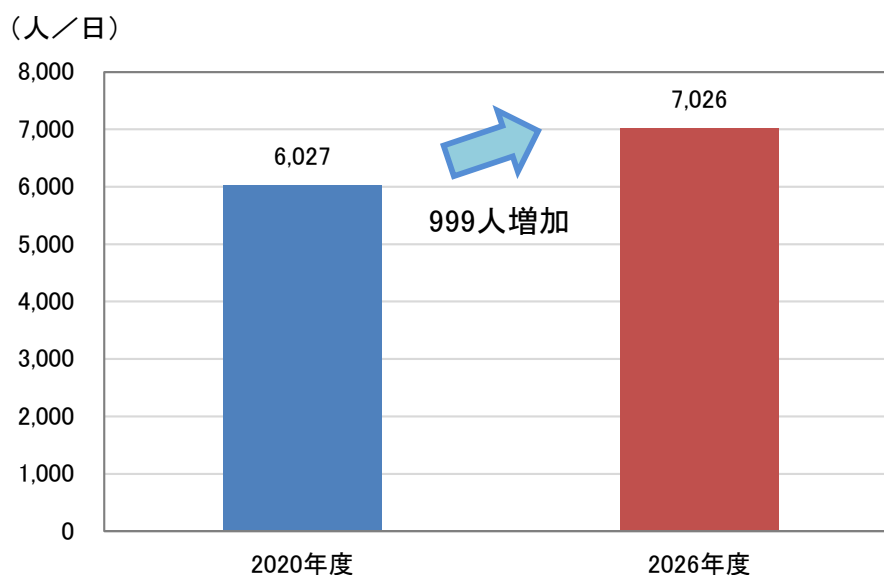
(2) 計画の数値目標

2020 年度（令和 2 年度）のたつの市の公共交通利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等によって、大きく減少し 6,027 人／日となっています。

今後、本計画の各種事業を進め、公共交通の利便性を向上させることで、利用者数の増加を目指します。

本計画における公共交通利用者数の目標値は 7,026 人／日とし、2020 年度（令和 2 年度）から 999 人／日増加させるものとします。

< 公共交通利用者数の目標値 >



※ 公共交通利用者数は、ＪＲ山陽本線（竜野駅）、ＪＲ姫新線（本竜野駅、東鷺崎駅、播磨新宮駅、千本駅、西栗栖駅）、路線バス、コミュニティバス、圏域バス「てくてくバス」、市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」を対象に算出

公共交通	2019年度 (人/日)	現況 ^{※1} (人/日)	目標 (人/日)	数値目標の考え方
ＪＲ山陽本線	2,204	1,787	2,068	ＪＲ姫新線年間乗車人数 300 万人達成と同等の増加率
ＪＲ姫新線	3,730	2,983	3,452	年間乗車人数 300 万人を再度達成
路線バス	1,046	850	994	2019 年度（令和元年度）から利用者 5%減に留める
コミュニティバス	230	208	250	2019 年度（令和元年度）＋令和跨線橋ルートの利用者数
圏域バス	8	7	10	2019 年度（令和元年度）＋ 2 人／日 [1 人／日×1 往復]
市民乗り合いタクシー	234	192	252	21 人／日 [1 便×4 人＋3 便×3 人＋4 便×2 人] ×12 台
合 計	7,452	6,027	7,026	—

※ 1 2020 年度（令和 2 年度）

(3) 目指すべき公共交通網

本計画における「目指すべき公共交通網」は、上位計画・関連計画との整合を図りつつ、たつの市における人の移動状況も踏まえて設定します。

交通需要が高い市内の各地域と市外を結ぶ定時定路線型の公共交通を「幹線」とし、鉄道軸及びバス軸がその役割を担います。

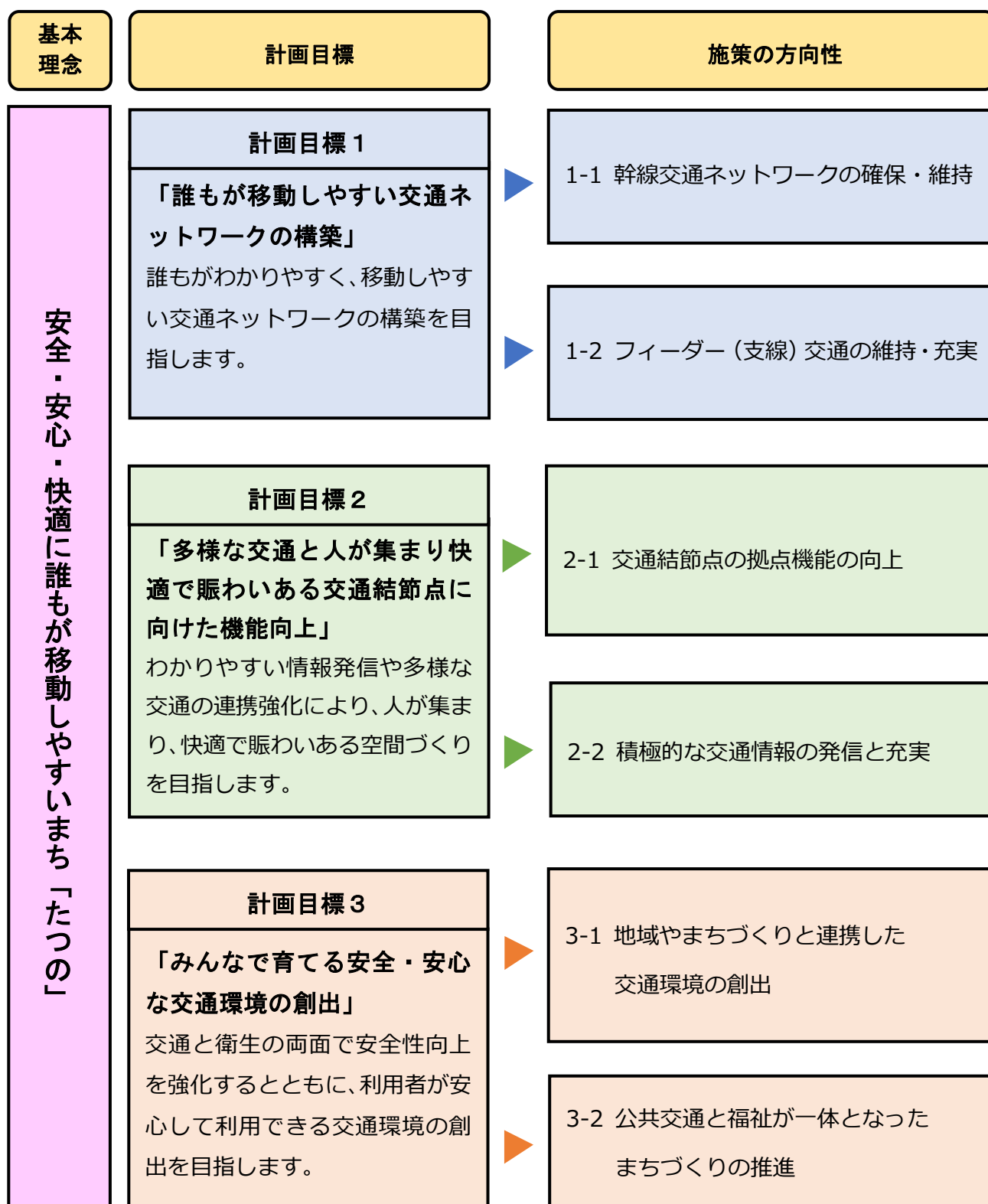
また、幹線では網羅できない地域においては、「支線」として市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」等がきめ細かく交通需要に対応します。



4. 目標達成のための施策の方向性・事業

基本理念である『安全・安心・快適に誰もが移動しやすいまち「たつの」』の実現に向けて定めた3つの計画目標について、これらを達成するための具体的な施策の方向性・事業を目標ごとにまとめ、体系化しています。

基本理念、計画目標、施策の方向性及び事業のつながりは、以下のようになります。





事業

- 1-1-1 行政主体で運営する幹線交通の維持・充実
- 1-1-2 交通事業者が運営する幹線交通の確保・維持

- 1-2-1 市全域をカバーするフィーダー（支線）交通の維持・改善
- 1-2-2 観光拠点アクセス交通の充実

- 2-1-1 鉄道駅の機能強化
- 2-1-2 既存施設を活用したバス待合環境の向上
- 2-1-3 パーク&ライド、サイクル&ライドの推進
- 2-1-4 ユニバーサルデザインの推進

- 2-2-1 総合的な公共交通情報の充実
- 2-2-2 複数交通手段間の連携に向けた MaaS 等の取組推進
- 2-2-3 バスロケーションシステムの導入

- 3-1-1 モビリティ・マネジメント（MM）の実施
- 3-1-2 マイレール・マイバス意識の醸成
- 3-1-3 参加型イベントの実施
- 3-1-4 公共交通の貨客混載の推進
- 3-1-5 安全・安心な利用環境の推進

- 3-2-1 高齢者・障害者への移動支援の推進
- 3-2-2 運転免許証自主返納の推進
- 3-2-3 子育て世帯への移動支援の推進

計画目標 1 「誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築」

施策の方向性 1-1 幹線交通ネットワークの確保・維持

■ 目指す姿：幹線交通の確保によって、誰もが移動しやすいまちを目指します。

■ 目指す姿の実現に向けた事業

事業 1-1-1	行政主体で運営する幹線交通の維持・充実
事業 1-1-2	交通事業者が運営する幹線交通の確保・維持

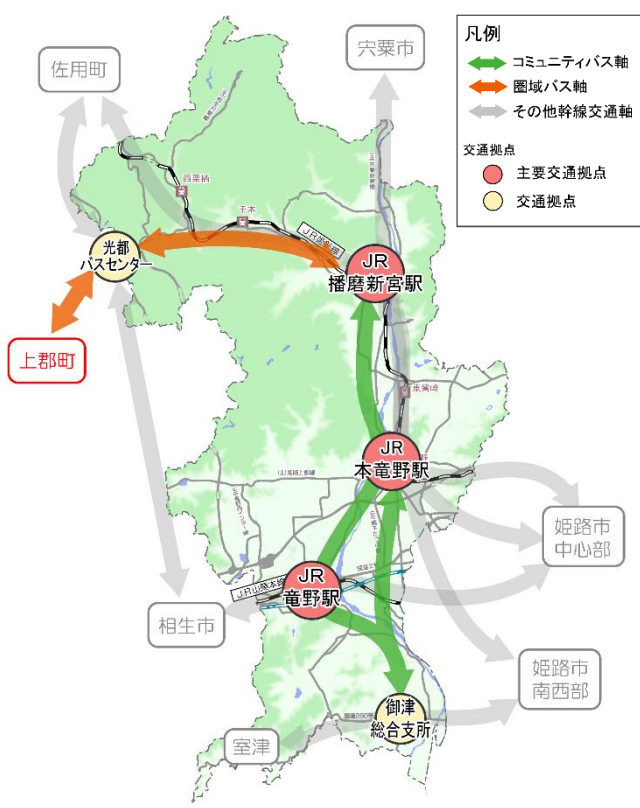
■ 評価指標

指 標 名	現状値 2020 年度 (令和 2 年度)	目標値 2026 年度 (令和 8 年度)
路線バス (市内)・コミュニティバス・圏域バスの合計乗車人数	1,065 人/日	1,254 人/日
路線バス (市内)・コミュニティバス・圏域バスの合計行政支援額 ^{※1}	51,903 千円/年	51,903 千円/年
路線バス (市内)・コミュニティバス・圏域バス全体の収支率 ^{※2}	60%	60%
コミュニティバス利用者満足度	69%	82%
J R 山陽本線・J R 姫新線利用者数 (市内の鉄道駅乗車人数)	4,770 人/日	5,520 人/日

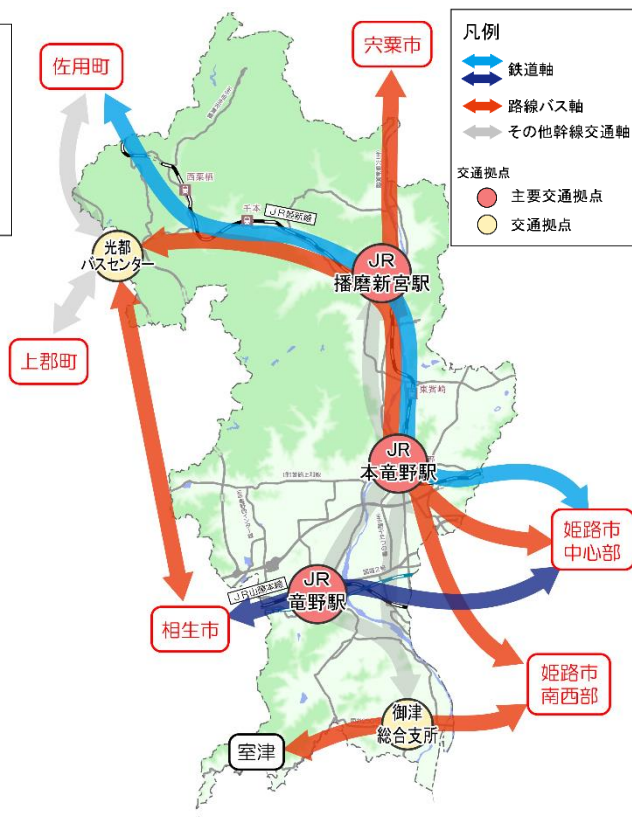
※ 1 行政支援額は、本市の財政支援額。(車両購入に係る費用を除く。)

※ 2 収支率は、市内を運行する路線バス・コミュニティバス・圏域バス「てくてくバス」の運行収入を運行経費で除した数値。

< 行政主体で運営する幹線交通 >



< 交通事業者が運営する幹線交通 >



■ 目指す姿の実現に向けた事業

事業 1-2-1	市全域をカバーするフィーダー（支線）交通の維持・改善
事業 1-2-2	観光拠点アクセス交通の充実

指 標 名	現状値 2020 年度（令和 2 年度）	目標値 2026 年度（令和 8 年度）
市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」利用者数	192 人／日	252 人／日
市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」行政支援額※ ¹	83,738 千円／年	87,338 千円／年
市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」収支率※ ²	12%	14%
市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」利用者満足度	97%	98%
新たなモビリティサービス導入件数	—	2 件

※2 収支率は、市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」の運行収入を運行経費で除した数値。

凡例

- 市民乗り合いタクシー
(デマンド交通)
運行区域
- 幹線交通軸

交通拠点

- 主要交通拠点
- 交通拠点

[illegible]

施策の方向性 2-1 交通結節点の拠点機能の向上

■ **目指す姿**：交通結節点の拠点機能の強化によって、人が集まり、快適で賑わいあふれるまちを目指します。

■ 目指す姿の実現に向けた事業

事業 2-1-1	鉄道駅の機能強化
事業 2-1-2	既存施設を活用したバス待合環境の向上
事業 2-1-3	パーク&ライド、サイクル&ライドの推進
事業 2-1-4	ユニバーサルデザインの推進

■ 評価指標

指 標 名	現状値 2020 年度（令和 2 年度）	目標値 2026 年度（令和 8 年度）
姫新線利用による通勤・通学者への駐車・駐輪料金の助成人数	141 人／年	150 人／年
鉄道駅やバス停の待合環境の改善箇所数	6 箇所／年	6 箇所／年

＜ 竜野駅周辺整備事業 ＞

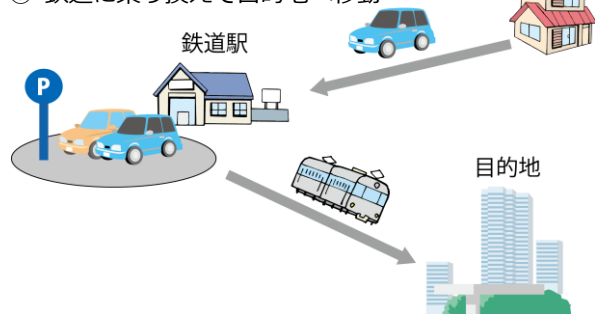


＜ ベンチと上屋が設置されているバス停 ＞

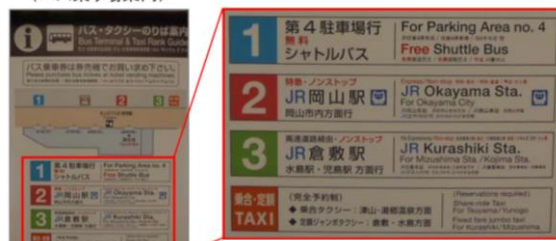


＜ パーク&ライドイメージ ＞

- ① 鉄道駅まで自動車を運転
- ② 鉄道駅周辺で自動車を駐車
- ③ 鉄道に乗り換えて目的地へ移動



＜ バス乗り場等のユニバーサルデザイン例 ＞
(バス乗り場案内)



(バス乗り場標示)



出典) 国土交通省

施策の方向性 2-2 積極的な交通情報の発信と充実

- **目指す姿**：公共交通に関する情報が、知りたい時にいつでも簡単に入手でき、公共交通を利用しやすいまちを目指します。

■ 目指す姿の実現に向けた事業

事業 2-2-1	総合的な公共交通情報の充実
事業 2-2-2	複数交通手段間の連携に向けた MaaS 等の取組推進
事業 2-2-3	バスロケーションシステムの導入

■ 評価指標

指 標 名	現状値 2020 年度（令和 2 年度）	目標値 2026 年度（令和 8 年度）
たつの市ホームページ交通関連ページの閲覧件数	42,410 件／年	50,000 件／年

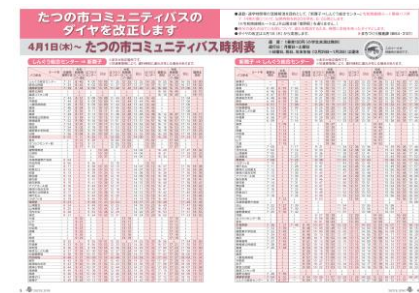
< ホームページでの情報提供 >



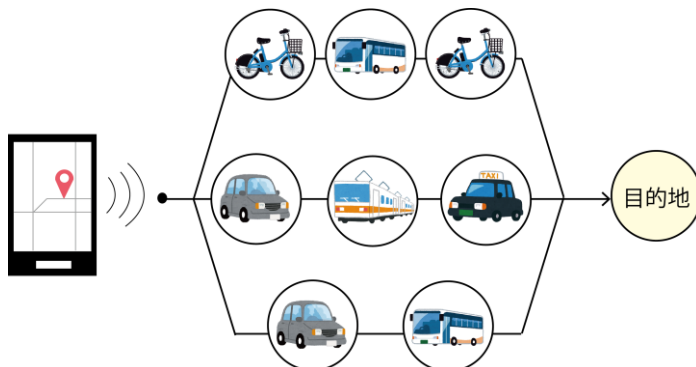
< 総合時刻表 >



< 「広報たつの」での情報提供 >



< MaaS アプリの利用イメージ >



< 路線バスのバスロケーションシステム >



出典）神姫バス Navi

施策の方向性 3-1 地域やまちづくりと連携した交通環境の創出

- **目指す姿**：市民が交通事業に積極的に参画することで、持続可能な公共交通を実現し、誰もが安全・安心に暮らせるまちを目指します。

■ **目指す姿の実現に向けた事業**

事業 3-1-1	モビリティ・マネジメント（MM）の実施
事業 3-1-2	マイレール・マイバス意識の醸成
事業 3-1-3	参加型イベントの実施
事業 3-1-4	公共交通の貨客混載の推進
事業 3-1-5	安全・安心な利用環境の推進

■ **評価指標**

指 標 名	現状値 2020 年度（令和 2 年度）	目標値 2026 年度（令和 8 年度）
モビリティ・マネジメント（MM）参加人数	989 人／年	1,200 人／年
参加型イベントの実施回数	1 回／年	3 回／年

＜ たつの市内で実施したモビリティ・マネジメント ＞ ＜ 企業・地域団体等によるバス停の維持管理 ＞



＜ 貨客混載のイメージ ＞



＜ コミュニティバス乗車体験イベント ＞



＜ 交通事業者による衛生対策 ＞



出典）神姫バス

施策の方向性 3-2 公共交通と福祉が一体となったまちづくりの推進

■ **目指す姿**：公共交通施策と福祉施策が一体となり、みんなで支え合うまちを目指します。

■ 目指す姿の実現に向けた事業

事業 3-2-1	高齢者・障害者への移動支援の推進
事業 3-2-2	運転免許証自主返納の推進
事業 3-2-3	子育て世帯への移動支援の推進

■ 評価指標

指 標 名	現状値 2020 年度 (令和2年度)	目標値 2026 年度 (令和8年度)
高齢者タクシー利用料助成件数	1,523 件/年	1,650 件/年
障害者福祉タクシー利用料助成件数	193 件/年	210 件/年
運転免許証自主返納によるコミュニティバス無料定期券及び 市民乗り合いタクシー乗車券申請件数	283 件/年	350 件/年
妊産婦タクシー助成券利用人数	—	110 人/年

＜ 高齢者・障害者タクシー券から市民乗り合いタクシー乗車券への交換 ＞

【高齢者・障害者タクシー券】

交付番号

たつの市高齢者タクシー利用券
(有効期限：2022年3月31日)

乗車日	年 月 日
助成額	500 円
利用者氏名	
タクシー会社名	
乗務員氏名	
車両番号	

(乗務員の方へ)

1. この利用券の提出があったときは、乗車料金から上記の助成額を差し引いた金額を受け取ってください。
2. 助成額は、この利用券を添付の上、所属会社から請求してください。

発行者 たつの市長 兵庫県 たつの市長印

交付番号

たつの市障害者福祉タクシー利用券
(有効期限 令和4年3月31日)

乗車日	年 月 日
助成額	500 円
利用者氏名	
タクシー会社名	
乗務員氏名	
車両番号	

(乗務員の方へ) 交付番号

1. この利用券の提出があったときは、乗車料金から助成額を差し引いた金額を受け取ってください。
2. 助成額は、この利用券を添付の上、所属会社から請求してください。

発行者 たつの市長 兵庫県 たつの市長印

交換
可能

【市民乗り合いタクシー乗車券】

交付番号

市民乗り合いタクシー乗車券
有効期限：2022年3月31日

利用区分	高齢者
乗車日	年 月 日
助成額	200 円
利用者氏名	

(乗務員の方へ)

1. この乗車券の提出があったときは、上記助成金額を市が助成します。
2. 助成額は、この乗車券を添付の上、所属会社から請求してください。

発行者 たつの市長 兵庫県 たつの市長印

交付番号

たつの市
市民乗り合いタクシー乗車券
(有効期限 令和4年3月31日)

利用区分	障害者
乗車日	年 月 日
助成額	〇 円
利用者氏名	

(乗務員の方へ)

1. この乗車券の提出があったときは、1 乗車の料金を市が助成します。
2. 助成額は、この乗車券を添付の上、所属会社から請求してください。

発行者 たつの市長 兵庫県 たつの市長印

＜ 高齢者運転免許証自主返納サポート制度案内チラシ ＞



＜ 子育て世帯が安心・快適に利用できる交通環境 ＞



＜ エコファミリー制度（路線バス） ＞

- ・エコファミリー制度は、土曜・日曜・祝日等に大人が同伴する小学生以下2人までのバス料金が無料になる制度です。
- ・神姫バス・神姫ゾーンバス・神姫グリーンバス・ウエスト神姫全線が対象です。（ただし、高速バス・空港リムジンバス、深夜バス、姫路城ループバス、コミュニティバスを除く。）

5. 計画の実現に向けて

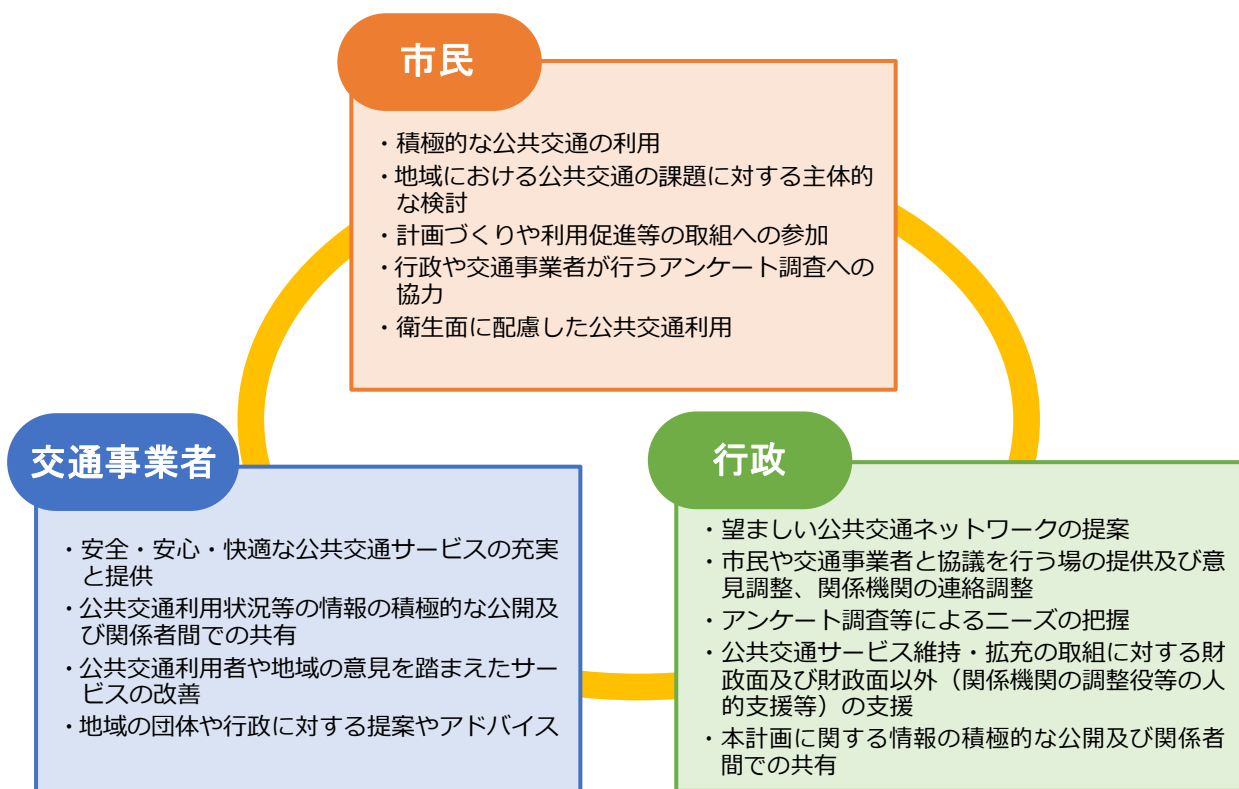


(1) 持続可能な公共交通確保のための連携

本計画を円滑に推進するに当たっては、公共交通を支える「市民」「交通事業者」「行政」の三者がそれぞれの役割を認識し、連携を強化していくことが重要です。

また、本市では、公共交通を支える三者の連携のみならず、交通分野以外の各分野との連携を強化することで、より効率的で持続可能な公共交通の確保を目指します。

< 公共交通を支える三者の連携 >



< 公共交通が廃止になった場合に個別対応が必要な分野 >



(2) 公共交通事業運営方針の設定

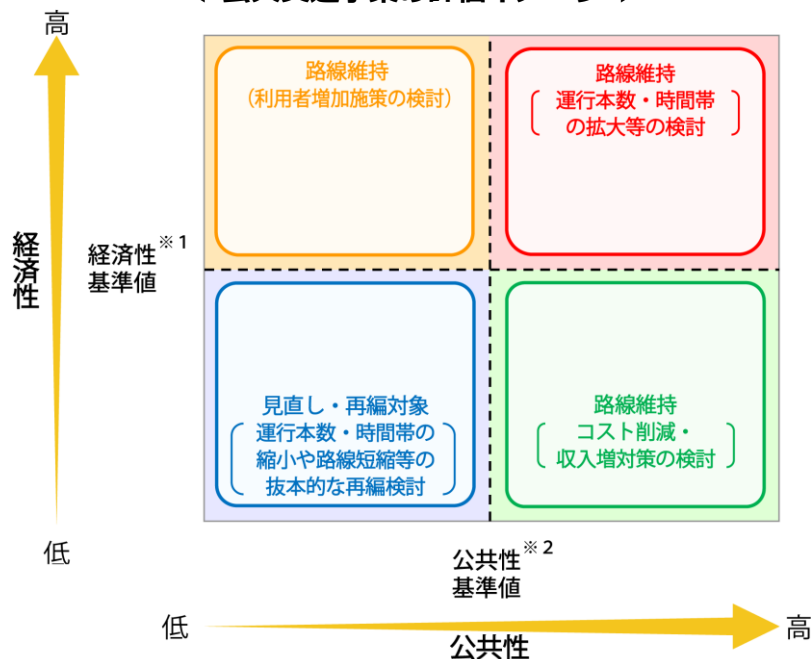
① 公共交通事業の評価の考え方

公共交通事業の運営に当たっては、「公共性」及び「経済性」の2つの視点を用いて事業の評価を行い、さらなる改善に向けた取り組みを推進していきます。

公共性評価は「市内全世帯又は区域世帯1世帯当たりの年間乗車回数」、経済性評価は「利用者1人当たりの行政支援額」を評価指標として用います。

公共交通事業の評価は、コミュニティバス及び市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」を対象として実施します。

< 公共交通事業の評価イメージ >



※1 経済性基準値は、「利用者1人当たりの行政支援額 = 年間行政支援額 ÷ 年間利用者数」で算定し、コミュニティバスでは640円/人、市民乗り合いタクシーでは1,280円/人となる。

※2 公共性基準値は、「市内全世帯又は区域世帯1世帯当たりの年間乗車回数 = 年間乗車回数 ÷ 市内全世帯数又は区域世帯数」で算定し、コミュニティバス、市民乗り合いタクシー共に2回/世帯となる。

② 評価結果を踏まえた今後の運営方針

公共交通事業の評価を実施し、その結果を踏まえて今後の運営方針を検討します。

評価結果が公共性評価・経済性評価のいずれかの基準値を上回る場合、現状の運行内容で利用者の需要を満たしていると考えられます。そのため、路線維持を前提に「運行本数・時間帯の拡大等」のサービス向上の検討、「コスト削減・収入増対策」の収支改善の検討、「利用者増加施策」の利用促進の検討を進めます。

評価結果が公共性評価・経済性評価ともに基準値を下回る場合、現状の利用状況では路線の維持が困難となるため、運行内容を市民に周知するとともに、利用促進を目的としたPR活動等を実施します。それでも利用状況が改善しない場合は、「見直し・再編対象」として、運行本数・運行時間帯の縮小や運行路線の短縮等の抜本的な見直し・再編を検討します。

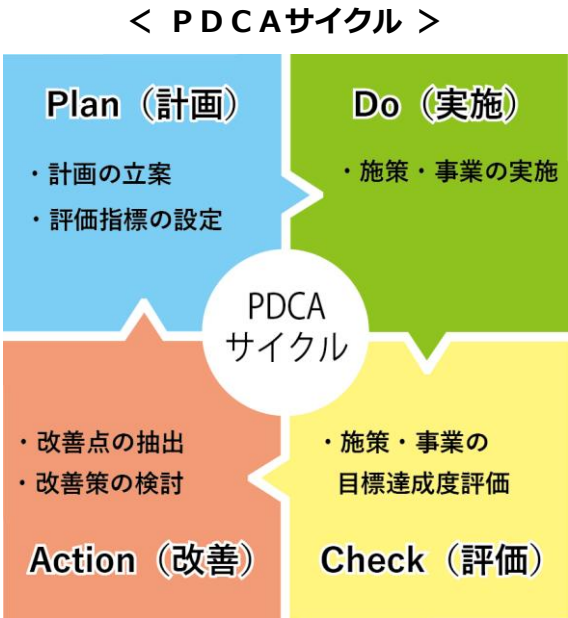
(3) 計画達成状況の評価及び計画の見直し

人口の減少や高齢化の進行、あるいは医療施設や商業施設の新設・廃止等、公共交通を取り巻く社会情勢及び地域情勢は常に変化します。

そのため、「Plan（計画）」、「Do（実施）」、「Check（評価）」、「Action（改善）」の4つの段階を繰り返す「PDCAサイクル」を導入することで、本計画及び各施策・事業の継続的な評価・改善を目指します。

具体的には、本計画（Plan）に基づいて施策・事業を実施（Do）します。また、「たつの市地域公共交通会議（法定協議会）」において、年1回程度の頻度で各施策・事業の目標達成度を評価（Check）します。

計画期間終了時（2026年度〔令和8年度〕）には、社会情勢及び地域情勢の変化や新たに生じた課題・問題点について整理を行い、改善点の抽出・改善策の検討（Action）を行うことで、本計画全体の見直しを行います。



< 評価・事業スケジュール >

	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
・計画の立案 ・評価指標の設定 (Plan)	→					→
・施策・事業の実施 (Do)	→	→	→	→	→	→
・施策・事業の 目標達成度評価 (Check)		→	→	→	→	
・改善点の抽出 ・改善策の検討 (Action)						→



第2次たつの市地域公共交通計画 概要版

発行 2022年(令和4年)3月

たつの市 都市政策部 まちづくり推進課

〒679-4192 たつの市龍野町富永1005番地1

TEL : 0791-64-3121 FAX : 0791-63-2594

E-mail : machizukuri@city.tatsuno.lg.jp

URL : <https://www.city.tatsuno.lg.jp/>
